

## 01 校訓・めざす生徒像

自主	自ら考え行動し、自分の学びや経験から新たな価値を生み出す力を育てます。 変化の激しい社会の中で、自分の意志を持って進んでいける力を大切にします。
友愛	自他を尊重し、互いに支え合いながら協力して物事に取り組む姿勢を育てます。 多様な人と共に生きる力を、日々の学校生活や学習活動の中で育みます。
健康	心と体の健康を土台に、粘り強く挑戦する力を育みます。 試行錯誤や努力を重ね、自信を持って未来に進める生徒の育成をめざします。

## 02 めざす学校像

### 「だれもが成長する学校、みんなの学校（自分がつくる自分の学校）」

生徒・教職員・保護者・地域住民が当事者意識を持ち、それぞれの役割を果たしながら共に学び、力を発揮できる場になることをめざしています。

「だれもが成長する学校」とは、こどもも大人も学び続ける姿勢を大切に、成長する学校です。

「みんなの学校（自分がつくる自分の学校）」とは、学校に関わる一人ひとりがより良い方向をめざして自ら考え行動する学校です。

## 03 学校教育目標

### 「自ら考え、協働し、未来を創る生徒の育成」

変化が激しく、答えのない課題に向き合うこれからの時代において、自ら考え行動する「主体性」、他者と協働する「社会性」、新たな価値を生み出す「創造性」を高めることは、よりよく生きる力の育成につながります。

## 04 基本方針

1

#### だれもが学び、成長する環境づくり

すべての生徒の学ぶ機会を保障するとともに、多様な背景を持つ生徒が共に学び、力を伸ばせる環境づくりに取り組みます。

2

#### 地域とともにある学校づくり

地域と連携し、こどもたちが地域の中で人と関わりながら育ち、地域への愛着と誇りを育めるよう、地域資源を活用した学習や、地域に貢献する活動を推進します。

3

#### 時代に対応したシステムと組織的実践力の向上

教育の質を高める業務改善や効率化を進めるとともに、教職員が協働できる体制づくりに取り組みます。教職員の学び合いの充実も図ります。

## 05 経営の重点

### 1 主体性と当事者意識の向上

すべての関係者が「自分ごと」として学校づくりに関われることを目指した取組を進めます。

- ① 学校の取組や魅力を積極的に発信するとともに、生徒・保護者・地域住民が学校づくりに参画できる具体的な場を明確にします。
- ② 生徒が主体的に取り組む活動を推進するとともに、PTA活動やボランティア、授業講師など、保護者や地域の方々が学校に関わる機会の充実を図ります。
- ③ アンケートや各種会合などを通じて寄せられた声を学校運営に反映させるとともに、工夫や貢献、成果を共有し、相互に認め合う雰囲気を醸成します。

### 2 目的の共有

学校づくりや教育活動の質を高めるために、関わるすべての人が「何のために行うのか」という目的を理解し、共通の方向に向かって取り組むことが大切であると考えます。

- ① 教育活動や教職員の業務、家庭・地域と連携して行う活動など、あらゆる教育活動において、その目的や背景にある課題を明確にし、関係者と共有することを重視します。また、活動の途中や終了時にも目的の再確認を行い、必要に応じて軌道修正を図ることで、より効果的で納得感のある実践へとつなげます。
- ② 日々の授業では、「なぜこの学習をするのか」「この学習でどんな力が身につくのか」といった「めあて」を明確にし、わかりやすく示します。学習の目的の可視化により、意欲や理解を深め、成長を実感しながら学びを進めることにつなげます。

### 3 自律的に学ぶ力の育成による学力向上

学習指導要領が目指す資質・能力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性）の育成を図るために、土台となる力（見えない学力）として、「人を大切にする力、自分の考えをもつ力、自分を表現する力、チャレンジする力」を高める指導を大切にします。

学力の向上は自律的に学ぶ力の育成を通して実現するものと考えます。

- ① 「体験する・感じる・考える・表現する」の4つのステップを大切にし、体験から得た気づきや発見をもとに理解や思考を深め、わかったことや考えたことを言葉や行動、作品や発表など、さまざまな形で表現する学習過程を重視します。これにより、知識や技能だけでなく、思考力・判断力・表現力も総合的に高めます。
- ② 「作りたい・調べたい・試したい」といった生徒の内発的な意欲を引き出すような授業づくりを進めます。こうした学びを通して、自ら問いを立て、仮説を考え、情報を集め、検証しようとする主体的で探究的な学習態度を育成し、知識や技能を意味づける実感のある学びに繋がります。
- ③ 「教える授業から、生徒が学ぶ授業へ」という視点で、教師の一方的な説明に偏らず、生徒自身が問いを持ち、考え、ICTを活用した共有活動を含めた対話的な学びを進めます。
- ④ 生徒一人ひとりの学びを支えるために、「学習コーチング」の充実にも取り組みます。問いかけや対話を通して、生徒が自分で学習の目標を設定し、ふり振り返りながら学びの進め方を考えられるようサポートします。定期的なふり振り返り活動やポートフォリオの活用を通じて、自分の成長を実感しながら次の学びへとつなげる力を育てます。

#### 4 自律性を高める生徒指導の充実

生徒が自ら考え、行動する力を育むことを生徒指導の根幹と捉えています。

- ① 家庭・地域と生徒指導に対する考え方（「指導＝管理」から「支援＝考えさせる」）を共有し、家庭や地域においても一方的な管理・指示ではなく、行動の背景にある思いや状況を理解しながら対話を通して自己の行動を振り返らせたり今後どうすればよいかを考えさせたりする関わりを大切にします。
- ② 「傾聴・承認・問いかけ」など、教職員の対話力向上と信頼関係の構築に努めます。
- ③ 課題が見られる場面では、生徒の思いや背景を受けとめ、対話を通してどうするかを自分で決める「自己決定」を促し、責任を持って行動する力の向上を図ります。
- ④ 情報共有・共通理解に基づく組織的な対応を徹底し、一人ひとりをチームで支えます。

#### 5 健康な心と身体の育成～自己調整力と体力の向上～

生徒一人ひとりが自らの心身の状態を理解し、適切に整える力（自己調整力）を育みながら、日々の活動を支える基礎体力の向上を図り、生涯にわたって健康を維持できる力の基盤を築きます。

- ① 生徒自身が自分の心や体の状態、生活習慣について定期的に振り返る活動を通して、自己の健康状態や生活習慣についての自己認識力を高めます。
- ② 睡眠や食事、運動など、生活習慣の見直しや、ストレスコントロールなどのセルフマネジメント力を高める指導の充実を図ります。
- ③ 日常的に体を動かす機会を確保し、生徒が達成感や運動の楽しさを実感できる活動の充実を図ります。

#### 6 尊重し応援し合う風土づくり

一人ひとりが自分らしく安心して学び、成長するには、「失敗しても大丈夫」と思える、認め合い応援し合う温かい風土が土台となると考えます。

- ① 互いの考えや感じ方を知り合う「考えの交流の場」を大切にします。授業や行事、生徒会活動などで意見を出し合い、多様な考えに触れることで、違いを認め合う関係づくりにつなげます。
- ② 「助け合い・認め合う」価値を実感できるよう、共通の目標に向かって協力する体験を積み重ねていくことを大切に、協働的な活動を推進します。
- ③ たよりや掲示物、校内放送などを通じて、「思いやり」や「応援」の姿を積極的に発信し、優しさが循環する文化を醸成します。

#### 7 家庭・地域・小学校等との連携

生徒一人ひとりの成長を支えるために、家庭や地域、小学校や他の教育機関との連携に努めます。

- ① 情報共有や協議の場を充実させるとともに、行事や活動をととも企画・運営することで、双方向の関係づくりを進めます。
- ② 地域資源を教育に活かすとともに、ボランティア活動や地域との協働イベントなど、地域の一員として主体的に社会に参加する活動を推進します。
- ③ 幼少期からの育ちや学びの連続性を意識し、一貫教育や学園教育、高校など上級学校と連携した取組の充実を図ります。